

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 11 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23401014

研究課題名(和文)湾岸諸国における外国人労働者：「多外国人国家」における共生・分断モデルの構築

研究課題名(英文)Expatriate Workers in the Arab Gulf States: Focusing on Ethno-national Relations

研究代表者

細田 尚美 (HOSODA, NAOMI)

香川大学・インターナショナルオフィス・講師

研究者番号：70452290

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,200,000円、(間接経費) 4,260,000円

研究成果の概要(和文)：中東の湾岸諸国では、アラブ首長国連邦(UAE)やカタールのように在住外国人の割合が8割を超える国家が出現している。本研究では、外国人が総人口の一定の割合を占める湾岸諸国の国民国家を仮に「多外国人国家」と呼ぶ。そして、湾岸諸国の「多外国人国家」及び外国人労働者送り出し国側の双方におけるフィールド調査に基づいて、これまで明らかにされてこなかった、湾岸諸国に生きる外国人労働者がどのような局面で他者と共生あるいは分断するのかを分析し、そのダイナミズムを湾岸型モデルとして提示する。これは欧米中心の多文化共生モデルとは異なる外国人受け入れのモデルとなる。

研究成果の概要(英文)：A large expatriate population resides in the six oil-rich Arab Gulf states. In some of them, such as the United Arab Emirates and Qatar, the percentage of foreign population has exceeded 80 percent. Despite such an unprecedented nature of the phenomenon, few studies have been done to investigate it in a comprehensive manner. This research project, consisting of area studies experts on both Gulf countries and major sending countries, has examined how these states have managed the huge migrant workers coming from around the globe without much political turmoil, as well as how migrants themselves manage to live in an extremely multicultural social environment, all employed as unstable temporary contractual workers, focusing on their relationships with co-nationals and those of different nationalities.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：湾岸諸国 外国人労働者 共生・分断 地域研究 グローバル化 フィリピン インドネシア インド

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化の時代、中東の湾岸諸国は新たな注目を集めている。巨額のオイルマネーを使ってインフラ整備を行った後、経済の脱石油化の先端産業を推進するなど、その躍進はとどまる様子がない。一方、湾岸諸国はもともと人口が希少であり、そうした経済的躍進を支えているのは2,200万人に及ぶ外国人労働者である。全人口に占める外国人の割合も増加し、最も割合が高い国 UAE やカタールにいたっては8割超を占める。UAE のドバイなど一部の都市では、外国人労働者の国籍も多様化し、コスモポリタンな都市空間が出現している。

ところが、外国人の受け入れに関する議論では、湾岸諸国の経験について詳しく言及されることは稀である。グローバル化が加速する中で、外国人労働者の受け入れを制度化しようとするために世界中の「ベスト・プラクティス」事例を採用する動きが進んでいる。世界最大の契約労働者の受け入れ地域である湾岸諸国をこの議論の中で無視することはできない。人口の多数を占める外国人労働者の主体性や外国人労働者間の関係、あるいは外国人労働者と受け入れ国の自国民との関係についての実態に基づいた分析を行うことが必要である。

## 2. 研究の目的

これまでの研究蓄積や実現可能性の観点から、受け入れ国として UAE、送り出し国としてフィリピンを軸としながら、他国の状況も比較検討し、湾岸地域における移民たちの共生・分断のモデルを構築する。受け入れ国としては、UAE と同様に外国人率が高いカタールと、約800万人という域内最大数の外国人を擁するサウジアラビアを、送り出し国としては、湾岸諸国における最大の送り出し国であり、湾岸との歴史的なつながりも深いインドと、逆に湾岸への労働者送り出しの新興国であるインドネシアを設定する。湾岸諸国には欧米やアラブ諸国などの出身者もいるが、それらの地域出身者の状況はフィリピン人の置かれている状況と大きく異なるため、本研究における直接的な比較対象国としない。

具体的テーマとして次の4つの論点を取り上げる。

テーマ1. 湾岸諸国における外国人労働者政策の動向

テーマ2. 湾岸諸国における自国民と外国人の間の共生と分断

テーマ3. 湾岸諸国における国籍が異なる外国人の間の共生と分断

テーマ4. 湾岸諸国における同じ国籍の外国人の間の共生と分断

## 3. 研究の方法

本研究は、上記4つの研究テーマについて、湾岸3カ国を1年に1~3カ国ずつ、アジアの3カ国を1年に1カ国ずつ、3年間にわたって現地調査を行った。研究代表者・分担者・協力者は研究対象の6カ国のいずれかの地域研究者であり、本研究はこのメンバー間の実質的なコラボレーションを特徴とするため、なるべく複数の研究者が同行程で調査を実施した。主な研究方法は、テーマ1では関係省庁訪問と新聞記事分析、テーマ2はインタビューとアンケート調査、テーマ3は大使館、宗教施設、学校、企業、NGO 訪問と参与観察、テーマ4ではインタビューと参与観察である。

収集したデータ分析ならびに研究の推進をはかるため、専門家を直接あるいはインターネットを通じて招き、国内研究会を年2~3回、国際ワークショップないしはセミナーを年1回以上開催した。最終年度の平成25年度には、中東研究やフィリピン研究の国際会議でパネル発表を行ったほか、学術ジャーナル紙で特集号を組んで、研究成果を発表した。

## 4. 研究成果

3年間の研究の結果、国際移民研究において中心を占める欧米型の移民社会とは異なる移民社会のかたちが見えてきた。湾岸諸国は、外国人労働者が人口の3~9割を占める多外国人国家となっているが、その外国人労働者たちはすべて契約労働者であり、長期間暮らしていてもシティズンシップを持つ可能性はない反面、ホスト社会から同化や社会統合を求める圧力を感じずに暮らしている。多様な人種や国籍の人が街角で日々すれ違いつつも、簡単な挨拶や職業上の会話など必要不可欠なコミュニケーションを除けば、お互いの生活や文化にかかわる面には足を踏み込まず、距離感を持って接する。それは、彼らの生活や文化のベースが出身地にあり、湾岸諸国での滞在は一時的であるという暗黙の了解が外国人労働者の間にもあるからである。彼らの多くは、特に長期滞在するようになった場合、民族や宗教を基礎としたローカルあるいはトランスナショナルなネットワークを自らの生きるコミュニティとしている。そして、これらのコミュニティが大規模に組織化し、公の場においてそのプレゼンスを主張することはない。

このような湾岸型移民社会の様相は、国際移民研究全体のなかで、次のような新たな知見をもたらした。第1に、湾岸諸国における同化圧力のなさを肯定的にとらえる意見が中間層やエリート層の間で頻りに聞かれる。湾岸諸国は欧米諸国と違い、本国よりも豊かな暮らしを享受しながら、ホスト社会とは必

要以上に交わずに本国の文化様式やコスモポリタンな生活様式を保てるという、いわば「飛び地社会」のような存在であることが、湾岸諸国で生活するメリットとみなす人が無視できない割合いる。グローバル化が著しく進展する現在、シティズンシップの見直しに関する議論は世界各地で盛んになっているが、湾岸諸国在住の外国人労働者の生活世界を探究することは、このシティズンシップの議論のなかで、それが付与されないことのデメリットのみならず、メリットについても検討する重要性を示している。

第2に、分断状況を生み出す湾岸諸国の移民受け入れ体制下では、多くの移民たちは経済的な利益を得られる反面、心の安定を失いやすい。そこで、ローカル、トランスナショナルなネットワークのなかに身をおくことで、経済的利益以外の側面も維持している。ただ、これらのネットワークは外部からは気づきにくい。それは、権威主義的な君主制国家において、外国人労働者たちが湾岸諸国で生きるうえで必要な戦略として、政府当局の監視の目を意識し、自分たちの行動が政府の許容範囲内に留まるよう自己規制を敷きながら、つながりを構築しているためである。湾岸諸国では、このような外からでは一見わからないようなネットワークが右往左往に張り巡らされており、このあまり可視化されていないネットワークこそが外国人労働者たちの長期滞在を支える実践といえる。

第3に、湾岸諸国に存在する分断状況は決して静的な状態ではなく、国内外の情勢の移り変わりとともに常時変化している。そして変化を起こす契機として注目に値するのが国際的な声である。家事労働者の例は、ある程度うまくいっているようにみえる湾岸諸国の受け入れ体制でも、人権侵害と思えるような事件が起きるたびに、送り出し国政府、国際NGOなどがこれらの国々の受け入れの仕組みに問題と報じ、それが時には国際的な圧力となる事実を示す。1970年代のオイルブーム以降、経済開発や体制維持を効率的に進めることを念頭に構築されてきた湾岸諸国の一時的労働力受け入れ体制だが、グローバルな経済開発を進めるようになった現在、湾岸諸国も国際社会と良好な関係を維持せざるをえず、外国人労働者の人権の問題等にも向き合うようになっている。

以上の研究成果は、研究プロジェクトのホームページで一部を公開しているほか、平成26年度科学研究費助成事業・研究成果公開促進費を得て明石書店から出版される。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

辻上奈美江 . 2013 . 「湾岸諸国における雇用主の語りから探る家事労働者のヴァルネラビリティ/エージェンシー」『白山人類学』16:55-73 . 査読有 .

細田尚美・渡邊暁子 . 2013 . 「湾岸アラブ諸国におけるフィリピン人労働者の改宗と社会関係の持続と変化 ポーン・アゲイン・クリスチャンとイスラーム改宗者の事例から」『白山人類学』16:29-53 . 査読有 .

松尾昌樹 . 2013 . 「湾岸アラブ諸国のエクス・クラシー 労働市場における移民と国民」『白山人類学』16:83-98 . 査読有 .

石井正子 . 2013 . 「湾岸産油国『多外国人国家』における共生と分断：フィリピン・ムスリム女性家事労働者(MFDW)の視点から」『白山人類学』16:75-91 . 査読有 .

細田尚美 . 2013 . 「日本の多文化共生に関する一考察 オーストラリア・UAE との比較の視点から」『香川大学インターナショナルオフィスジャーナル』4:1-18 . 査読有 .

Hosoda, Naomi . 2013 . “Kababayan Solidarity? Filipino Communities and Class Relations in United Arab Emirates Cities” . *Journal of Arabian Studies: Arabia, the Gulf, and the Red Sea* 3(1):18-35 . 査読有 .

渡邊暁子 . 2013 . 「イスラーム世界と人びとの移動から地域研究を考える イスラーム改宗者とフィリピン・ムスリム社会の再編」『地域研究』14(1):194-213 . 査読有 .

[学会発表](計19件)

松川恭子 . 「舞台を介した故郷とのつながり インド・ゴア社会、ティアトル劇の複数メディアによる展開」 . 日本文化人類学会第45回研究大会 2011年6月12日 法政大学、東京都 .

辻上奈美江 . 「自国民と外国人労働者の権力関係：家事労働者と雇用主に関する考察」 . 白山人類学研究会第16回研究フォーラム、2012年10月6日、東洋大学、東京都 .

石井正子 . 「湾岸産油国『多外国人国家』における共生と分断：フィリピンムスリム女性家事労働者(MFDW)の視点」 . 第17回フィリピン研究会全国フォーラム、2012年7月14日、京都大学、京都府 .

石井正子・平野恵子 . 「『家事労働者』と送り出し社会：フィリピンとインドネシアの比較」 . 白山人類学研究会第16回研究フォーラム、2012年10月6日、東洋大学、東京都 .

細田尚美・渡邊暁子 . 「改宗する在湾岸フィリピン人労働者：国籍・階層を超えたつながり」 . 白山人類学研究会第16回研究フォーラム、2012年10月6日、東洋大学、東京都 .

細田尚美 . 「UAEにおける『カバヤン』互助網の動態」 . 第17回フィリピン研究会全

国フォーラム ,2012 年 7 月 14 日 ,京都大学 ,  
京都府 .

松尾昌樹 . 「湾岸アラブ諸国のエスノクラ  
シー：複合社会論の視点から」 . 白山人類学  
研究会第 16 回研究フォーラム ,2012 年 10 月  
6 日 , 東洋大学 , 東京都 .

渡邊暁子 . 「湾岸諸国におけるフィリピン  
人女性移動労働者のイスラーム改宗」 . 第 17  
回フィリピン研究会全国フォーラム ,2012 年  
7 月 14 日 , 京都大学 , 京都府 .

辻上奈美江 . 「アラブの春はジェンダー再  
編をもたらすか」 . 日本中東学会第 29 回年次  
大会 ,2013 年 5 月 12 日 ,大阪大学 ,大阪府 .

Ishii , Masako . “ Reconstructing  
Relationship Between “Others” in the Gulf  
States: A Case of Muslim Filipina Domestic  
Workers ” . 47th Middle East Studies  
Association Annual Meeting , 13 October  
2013 , Sheraton Hotel , New Orleans ,  
Louisiana , USA

Tsujigami , Namie . “ Exploration of  
Vulnerability / Agency of the Female  
Migrant Domestic Workers ” . 47th  
Middle East Studies Association Annual  
Meeting ,13 October 2013 ,Sheraton Hotel ,  
New Orleans , Louisiana , USA

Ishii , Masako . “ Transforming Notion of  
Protection in the Arab Gulf States ” .  
Philippine Studies Conference in Japan , 1  
March 2014 , Kyoto University , Kyoto .

細田尚美・渡邊暁子 . 「湾岸アラブ諸国で  
改宗すること フィリピン移住労働者にみ  
る親密権の変容と新たな力関係への包摂」 .  
日本文化人類学会第 47 回研究大会 ,2013 年  
6 月 8 日 , 慶應義塾大学 , 東京都 .

Hosoda , Naom and Akiko Watanabe .  
“ Creating a ‘ New Home ’ Away from  
Home: Religious Conversations of Filipina  
Domestic Workers in Dubai and Doha ” .  
47th Middle East Studies Association  
Annual Meeting , 13 October 2013 ,  
Sheraton Hotel ,New Orleans ,Louisiana ,  
USA

Hosoda , Naomi . “ Filipino Workers in  
Volunteer Groups and their Diasporic  
Identity in the United Arab Emirates ” .  
Philippine Studies Conference in Japan , 1  
March 2014 , Kyoto University , Kyoto .

Watanabe , Akiko . “ Solidarities and  
Disjunctions among the New Muslims in  
the Arab Gulf States : The Cases in the  
UAE and Qatar ” . Philippine Studies  
Conference in Japan , 1 March 2014 , Kyoto  
University , Kyoto .

Watanabe , Akiko and Naomi Hosoda .  
“ Religious Conversion of Filipino Workers  
in the Gulf Arab States : Transformation of  
Intimate Spheres and Incorporation to  
New Power Relations ” . The 7th  
International Conference of Euro SEAS , 2

~ 5 July 2013 , Technical University of  
Lisbon , Lisboa , Portugal .

松川恭子 . 「インド・ゴア社会の演劇ティ  
アトルにみる地域的想像力の展開」 . 日本文  
化人類学会第 47 回研究大会 ,2013 年 6 月 9  
日 , 慶應義塾大学 , 東京都 .

Matsukawa , Kyoko .

“ The Transformation of South Asian  
Performing Arts in the Age of  
Globalization ” . The Eighth International  
Convention of Asia Scholars (ICAS8) , 24  
June 2013 , Macau , China .

〔図書〕(計 4 件)

石井正子 . 2011 . 「複合格差を移動する：  
湾岸産油国で家事労働者として働くフィリ  
ピンのムスリム女性」峰陽一(編)『世界で  
もっとも貧しくあるということ』 . 早稲田大  
学出版部 , 25-46 .

松川恭子 . 2014 . 「『私たちのことば』の行  
方 インド・ゴア社会における多言語状況の  
文化人類学」 . 風響社 , 312 .

松川恭子 . 2013 . 「『私たち』とは誰のこ  
と? : インド、ゴア社会の演劇ティアトルに  
みるキリスト教徒の語り」杉本良男(編)『キ  
リスト教文明とナショナリズム 人類学的  
比較研究』 . 風響社 , 125-151 .

松尾昌樹 . 2013 . 「湾岸アラブ諸国におけ  
る国民と移民 国籍に基づく分業体制と権  
威主義体制」土屋一樹(編)『中東地域秩序  
の行方「アラブの春」と中東諸国の対外政策』 .  
アジア経済研究所 , 169-194 .

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.cc.kagawa-u.ac.jp/~hosoda/ka  
ken/home.html](http://www.cc.kagawa-u.ac.jp/~hosoda/ka<br/>ken/home.html)

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

細田 尚美 (HOSODA NAOMI)

香川大学・インターナショナルオフィス・  
講師

研究者番号 : 70452290

### (2) 研究分担者

石井 正子 (ISHII MASAKO)

大阪大学・大学院人間科学研究科・

准教授

研究者番号 : 40353453

辻上 奈美江 (TSUJIGAMI NAMIE)

東京大学・大学院総合文化研究科・

特任准教授

研究者番号 : 30584031

松尾 昌樹 (MATSUO MASAKI)

宇都宮大学・国際学部・准教授  
研究者番号：10396616

松川 恭子 (MATSUKAWA KYOKO)  
奈良大学・社会学部・准教授  
研究者番号：00379223

渡邊 暁子 (WATANABE AKIKO)  
文教大学・国際学部・講師  
研究者番号：70553684